

4月における水稲の病虫害の発生状況は以下のとおりです。

越冬害虫調査(50 地点)は4月6～10 日, 育苗期病害調査(39 地点)は 24～26 日に実施。

育苗期病害

○ ばか苗病

・ばか苗病による徒長苗が確認された育苗施設の割合(発生地点率)は 46.2%で平成(30.8%)より高い状況でした。発病箱率の平均は 0.89%で平成(0.86%)並でしたが, 施設によっては発病箱率が約1割と比率の高い施設もありました(図1)。

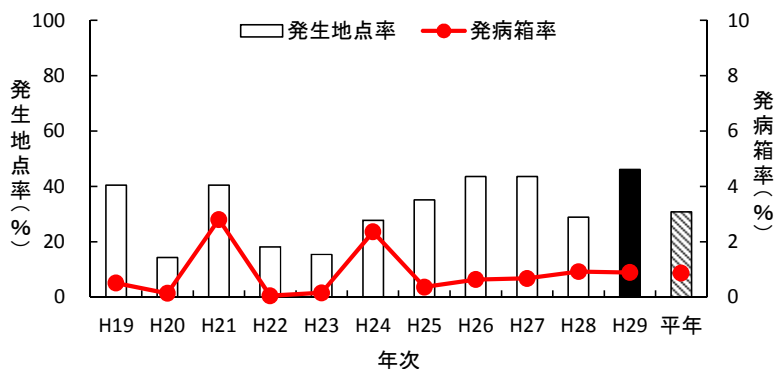


図1 ばか苗病の発生地点率及び平均発病箱率

※H29 の調査地点:39 育苗施設 (発病の著しい地点を除く。)

平成:過去 10 か年平均

○ 苗立枯病

・苗立枯病による枯死苗等が確認された育苗施設の割合(発生地点率)は 7.7%で平成(24.0%)よりやや低く, 発病箱率の平均は 0.10%で平成(2.49%)より低い状況でした。トリコデルマ, リゾプス又はフザリウムによる立枯症状でした。

また, 立枯症状は見られないものの, 種籾の周辺等に苗立枯病菌のカビが確認された育苗施設がありました。

○ 細菌性苗腐敗症

・今回の調査では, 発生は確認されませんでした。

越冬害虫

○ ツマグロヨコバイ

・水田の畦畔及びその付近の雑草地におけるツマグロヨコバイの発生地点率は20.0%で平年(12.7%)よりやや高く、すくいとり虫数平均は3.0頭で平年(1.5頭)よりやや多い状況でした(図2)。

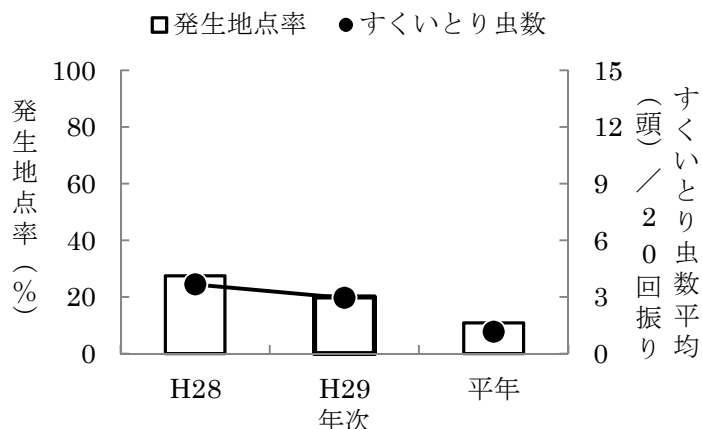


図2 ツマグロヨコバイの発生地点率とすくいとり虫数

※調査方法：4月上旬畦畔の20回すくいとり調査。

平年：10か年平均。成虫と幼虫の合計。

○ ヒメトビウンカ

・水田の畦畔及びその付近の雑草地におけるヒメトビウンカの発生地点率は26.0%で平年(62.1%)より低く、すくいとり虫数平均は0.9頭で平年(7.7頭)より少ない状況でした(図3)。

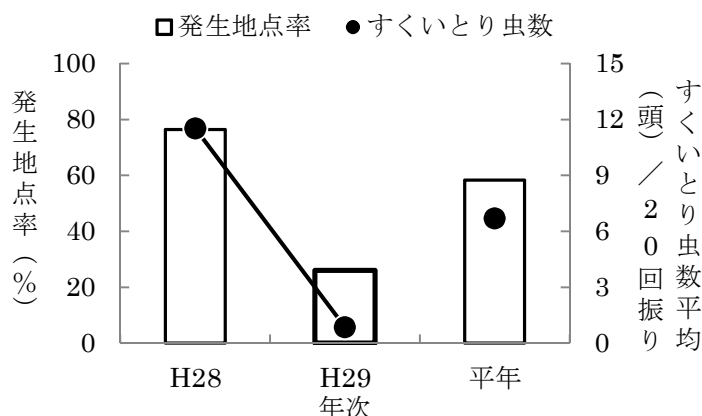


図3 ヒメトビウンカの発生地点率とすくいとり虫数

※調査方法：4月上旬畦畔の20回すくいとり調査。

平年：10か年平均。成虫と幼虫の合計。

○ イネヒメハモグリバエ

・水田周辺の用水路等における越冬世代による産卵の発生地点率は3.2%で平年(15.4%)より低く、雑草100葉当たり産卵数平均は0.9個で平年(2.2個)並でした(図4)。

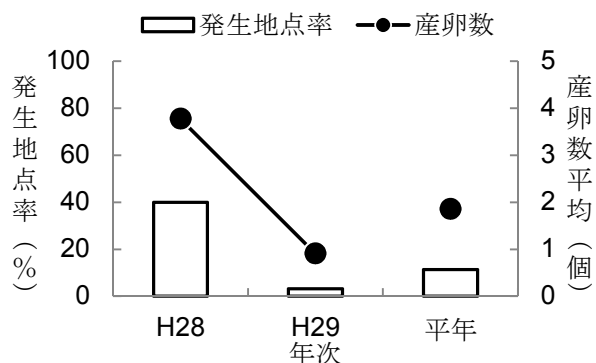


図4 イネヒメハモグリバエの産卵数

※調査方法：4月上旬水田周辺の用水路雑草100葉調査。

平年：10か年平均。